稲葉山小新聞

（いなばやま）

5、6年生が作った新聞です

防災学習 5年生

地域をよく知り 日頃の備えに

防災学習に取り組む５年生は２０２２年、地域の強みと弱みに目を向け、調査や発表に取り組んだ。

① 校区の防災マップ作成

５年生40人は７月12日、第１回として地域の方と協力し、「校区の防災マップ」を作成した。各班で地域のボランティアの方に教えていただきながら、白地図に避難場所や消火栓の位置などを書き、場所を知ることができた。

参加した児童は「地域の方が優しく教えてくださって分かったことがたくさんあり、うれしかった」と話した。

白地図を使って防災マップを作成

地域の方々に教わりながら防災マップを作ることで、改めて自分の住む地域のことをよく知ることができ、班の人たちと危険マップを完成させるという目標を持つことで、普段以上に協力し、学級のチームワークを高めることができた。

今回の経験は、これから稲葉山に生きる自分たちの知識となり、調べる力や協力する力になった。このような取り組みが防災に対しての備えとなり、今後も社会に生かせるものになるだろう。

② 危険な場所を調査

第２回は10月21日、分担して稲葉山地区の危険な場所を調査した。地域の方の協力のもと、昔からの危険な場所がどのように改善されたのかを確かめた。

実際に調査すると、高いブロック塀や命にかかわる危ない場所が、数多く見られた。

一緒に体験した何人かに感想を聞いたところ、「自分の住んでいる周りのことしか知らなかった」「ほかの町に目を向けるいい機会だった」など、新しい発見をしたとの意見が多かった。

「これを機に避難場所や安全な避難経路を確認し、将来、危険な場所を直す仕事に生かせるようにしたい」と話す人もいた。

危険な場所を調査する児童

今回の調査では、今まで気づかなかった校区の危険な場所に気づけるようになるとともに、自分の生き方に目を向ける人もあり、命を大切にする考え方につながるものになった。

③ 川に秘められた歴史を知る

学習発表会が11月19日にあり、第３回として防災学習をテーマにした劇を演じた。「忘れられた川」とのタイトルで発表された内容は、かつて稲葉山で発生した水害についてであった。稲葉山地区は、昔たくさんの水害に見舞われ、今のような安全な場所ではなかったそうだ。

この学習で子ども役を演じた友達は「あまり知ることのなかった昔の災害を知った。避難する時、災害の怖さが分かってから冷静に行動することができる。役を演じてみてよかった」と語ってくれた。演じた５年生は、忘れられかけた昔の水害を地域の方に伝えるために、一生懸命の取り組みを見せた。

水害について劇を演じる児童

今回の学習を通して、身近にある川には、いろいろな歴史が秘められていることを知った。かつてあった水害を忘れることなく、後世に伝えていくことが大切だと分かった。

④ オンライン発表で伝える

第４回の学習は、12月12日にオンライン発表会を行った。今までの学習を通して学んだことをスライドにまとめて、福島大学の初澤敏生先生にオンラインで発表した。

参加した友達は「学校の周りには災害の可能性がたくさんある。命を守るためにも避難訓練や町内地図を見るようにしようと思う」と話してくれた。

今回の学習を通して、自分たちの住む地域だけでなく、県内でも多くの災害が起こったことも伝えることができた。また、改めて鳥取県の災害のことも学ぶ機会となった。

学習の成果を発表する児童

こうした地域のことをよく知る学習で災害が防げるのならば、この取り組みは大事だと思った。

学校概要

【学校名】鳥取市立稲葉山小学校
【現在地】鳥取市卯垣2丁目657番地
【校長名】河合真由子
【児童数】201人
【校　訓】「英知」「友愛」「剛健」
【学校教育目標】志をもち　かしこく　あたたかく　たくましい児童の育成
【沿　革】
1953（昭和28）年　稲葉山小学校開校（現位置）
2023（令和5）年に創立70周年を迎える

教育に新聞を NIE Newspaper in Education

命を守る行動を

防災学習 1年生

新聞紙を使いスリッパ作り

1年生は2022年12月14日、多目的ホールで新聞を材料にしてスリッパを作った。困っている児童に地域の方が優しく丁寧に教えてくださるなど、地域の方と協力して作業を進めた。

完成したスリッパを履き、「履いたらちょうどよかった」との声が上がるなど、履き心地に満足していた。参加した児童は、災害時には避難所で作って使いたいと意欲を高めた。

完成したスリッパを履く児童

防災学習 2年生

牛乳パックでお皿づくり

2年生は2022年12月6日、防災学習の一環で、牛乳パックを使ったお皿づくりに取り組んだ。地域の人や友達に、教えてもらったり手伝ったりしながらお皿づくりを進めていた。

学習の最後の感想では、「牛乳パックでお皿が作れるなんてすごい」「お皿づくりが楽しかった」といった声が聞かれ、教えてくださった地域の方への感謝の言葉であふれた。

牛乳パックを利用して完成したお皿

防災学習 3年生

段ボールベッド作り

3年生は2022年10月25日、多目的ホールで防災学習を行った。鳥取県社会福祉協議会災害福祉センターの講師の方に来ていただき、災害時に避難場所で簡単に作ることができる段ボールベッド作りに取り組んだ。

講師の方から災害時に意識してほしいこととして、「チームワーク・工夫する・全体を見る」の3点を教えていただいた。学校生活でも、いざというときのサバイバル力を高めるために、3点を日々意識していきたい。

学習を終えた児童からは「段ボールでベッドを組み立てることが大変だった」「知らないことがあって勉強になった」などの感想が挙がった。

避難場所で役立つ段ボールベッド作り

防災学習 4年生

地震対策の大切さ学ぶ

4年生は2022年11月14日、消防署の方に来ていただき、防災学習を行った。地震への備え方や地震が起きたときの安全な避難の仕方などを教わった。地震の揺れを再現する起震車にも乗り、震度6~7の揺れを体験した。

体験した児童は「揺れているときに立つことができなくて怖かった」と話し、地震の揺れの怖さを知ることができた。また、「地震が来ても大丈夫なように、家でいろいろと用意しておきたい」といった感想もあり、4年生にとって日々の備えの大切さを学ぶ時間となった。

起震車で揺れを体験する児童

防災学習 6年生

とっさの対応や状況判断を訓練

クロスロードゲーム

6年生は2022年11月22日、こくみん共済の講師の方や地域の方々と一緒に、クロスロードゲームを行った。クロスロードゲームとは、災害時のさまざまな場面を想定し、二者択一で選択をし、理由について話し合うゲームで、とっさの対応や状況判断を訓練するものである。

例えば、避難指示が出た状況で、真夜中の豪雨の中でも避難するかどうかを、ＹＥＳかＮＯで答えるなど、いろいろな状況を想定した問題があった。

「みんなで意見を共有し合うことができてよかった」「今後の人生でも選択する場面はあるので、冷静に考えて判断したい」など、防災だけでなく生活にも役立てようという気持ちが高まり、有意義な学習となった。

選択理由を話し合う児童